

令和6年3月19日(火)

校長室より(172)



こんにちは。

れいわ ねんど わか しき そつぎょうしき ことば  
令和5年度のお別れ式と卒業式がありました。お別れの言葉が放送

で流れたあと、6年生が校内を並んで歩いて、1・2・3・

4・5年生とお別れをしました。卒業式では、一人一人

そつぎょうしょうしょ てわた わたし  
に卒業証書を手渡しました。みんな私の目をしっかりと

どうどう う と  
見て堂々と受け取ってくれました。

いちぶしょうりやく  
卒業生に向けたメッセージ(一部省略)です。



6年生のみなさん、おはようございます。

先週の土曜日日曜日は、春というより初夏を思わせる暖かさが続きましたが、昨日からまた、季節どおりの陽気になっています。そんな中でも、三咲小自慢の桜の蕾は膨らんできて、間もなく花を開こうとしています。

本日、巣立ちの日を迎えた135名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

6年間という、これまでの人生の半分を占める長い小学校生活を終えて、今、皆さんの心には、さまざまな思い出が巡っていることでしょう。嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、悔しかったことなど、たくさんあったと思います。

6年前の入学式の日、おうちの方に手を引かれながら登校したことを覚えていますか。これから始まる小学校生活への期待で、胸がいっぱいだったのではないのでしょうか。あれから、もう6年が経ちました。あのときとは、心も身体も成長しました。当時は大きかったランドセルが、今では小さく感じていることでしょう。本日の式に参列されているお母様やお父様の目には、成長した皆さんの姿が頼もしく、力強く、また美しく映っていることと思います。

みなさんは、「コロナ禍」という、世界の歴史に残るほどの大変な出来事の中で、小学校生活の半分以上を過ごしました。みんなが2年生だったときの3月から始まった「全国一斉臨時休業」は、3年生の5月の終わりまで約3ヶ月間も続きました。教員生活30年を超える私ですらこれまで経験したことのない「6月の始業式」や「分散登校」なるものがありました。

学校が始まってからは、手洗い・マスク・ディスタンス、そして、毎日の検温が欠かせない、大変窮屈な日々になりました。「緊急事態宣言」やら「まん延防止等重点措置」やら、これまで聞いたこともなかった早口言葉のようなものに翻弄される日々でした。学校生活では、なくてはならないはずの行事でさえ、次々と中止に追い込まれました。そんな状況でしたが、みなさんは、常に前を向き、楽しく学校生活を送り続けました。コロナ禍は、結局、今年の5月まで続きました。

その5月にあった運動会で、みんなが見せてくれた「フラッグ演技」は、最高学年にふさわしい、素晴らしいものでした。今でも、Adoさんの『私は最強』を耳にすると、職員室の出入口から見たみなさんの練習風景が蘇ります。また、多くの人が「小学校生活一番の思い出」と言っていた9月の日光修学旅行は、私にとっても思い出の一つです。男子全員と2時間かけて入った源泉掛け流しの温泉、中禅寺湖の水が一気に流れ落ちる華嚴の滝、日光江戸村で食べた焼き鳥やソフトクリームの味は、今でも覚えています。でも、みなさんにとって、何よりも思い出は、「友達と過ごした夜」だったのではないのでしょうか。そして、この1月からつい先日まで行っていた「校長室ランチ」も、とっても楽しい時間になりました。みんなの食レポ、なかなかよかったですよ。

私は、以前三咲小学校にいたとはいえ、それは10年前のことなので、みんなのことは、この1年間の様子しかわかりません。でも、たとえ1年間でも、その成長は、目を見張るものがありました。一人一人が、「頼りがいのある6年生」になりました。学校のため、下級生のためにありがとうございました。

そんなみんなが、毎日元気に学校に通えたのは、後ろにいらっしゃる保護者の方々のお力添えがあったからだということは、忘れないでください。そして、新たな目標をもって、4月から始まる中学校生活をスタートさせてください。

(中略)

最後に卒業生のみなさん、ここから卒業式らしい話を少しだけします。卒業文集にも書きましたが、どんなことでもいいので「夢」をもってください。「夢」というのは、自分が叶えたいことです。将来就きたい職業でもいいし、今、自分が目標としていることでも構いません。その「夢」が決まったら、それを紙に書いたり、言葉にしたりして、おうちの方や友達に伝えましょう。何かしらの形で表現しておくど、自ずと少しずつ「夢」に近付いていくはずですよ。

がんばれ、三咲っ子。

明日の「春分しゅんぶんの日」が明けて、明後日からは、5年生が三咲小学校の最高学年さいこうがくねんになって、リーダーになります。